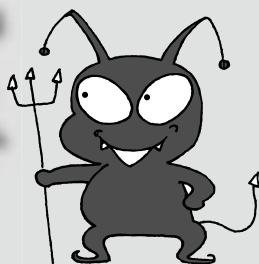
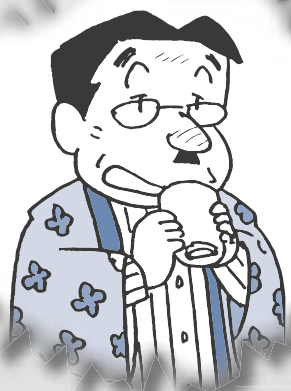


日本最大の 感染症



保健センター ☎67・1151

かつて「国民病」と言われた結核は、医療や生活水準の向上で完治するようになり、「結核は過去の病気」と思われるようになりました。しかし、結核は、今でも日本最大の感染症（人から人にうつる病気）で、毎年3万5千人以上の患者が発生し、2千500人近くの死者を出しています。

完治するといってもなかなか減少しない、この結核。原因としては、人口の高齢化や集団感染などが考えられますが、最大の原因は皆さんの「過去の病気」という意識です。

一人ひとりが結核に関心を持って、正しい知識を身につけることで、自分だけでなく、家族や周りの人の健康を守りましょう。

結核って？

結核菌によって、主に肺に炎症を起こす病気です。結核患者がせきやくしゃみをした時に、飛び散るしぶきの中の結核菌が空気中に浮いていて、その空気を吸いこむことによって感染します。患者の使った食器や衣服などから感染する危険性はありません。

結核の症状は、せきや微熱・たんが出るなど、風邪の症状に似ています。そのため、単なる風邪と自己判断してしまう場合があります。自己判断してしまっても、2週間以上もせきや微熱が続いたり、理由もなく体重減少や胸痛がした時は、医療機関で診てもらいましょう。

感染と発病

結核菌を吸い込んでも体の免疫力により、体内に結核菌が閉じ込められた状態を「感染」といいます。そして、肺に炎症をおこし、せきやたんなどの症状がでることを「発病」といいます。発病するのは、感染した人の2割程度で、一生発病しない人もいます。

結核の現状

(平成13年度)

	全国	愛知県	蒲 郡
新登録患者数 (新たに結核と診断され登録された患者)	35,489	2,195	23
かくたんまつ 喀痰塗抹 陽性患者数 (たんの中に菌が発見される患者)	12,656	767	4
結核死亡数	2,488	127	1